

もくじ

第1章	人間活動の歴史	1
1.1	環境史の視点	1
1.2	ヒトがいる環境といない環境：ヒトの到来とともに起こる環境変化	4
1.3	農業のある環境：半自然環境の形成	7
1.4	拡大する人為的環境	13
1.5	まとめ：環境研究のパラドックス	16
第2章	生物多様性の危機	22
2.1	はじめに	22
2.2	生物多様性とは	23
2.3	生物多様性の危機	26
2.4	遺伝的多様性の危機	33
2.5	生態系の多様性の危機	36
2.6	なぜ生物多様性の保全が重要か？	37
第3章	都市の自然環境	43
3.1	植物から見た都市環境	43
3.2	鳥から見た都市環境	54
第4章	二次的な自然環境	67
4.1	二次的自然とは	67
4.2	生態系および景観としての二次的自然	69
4.3	失われゆく二次的自然の生物多様性	73
4.4	農業生産システムで守られている二次的な草地環境	78
4.5	二次的自然の保全と再生に向けて	82

第5章	生息地の分断化	87
5.1	はじめに	87
5.2	生息地の分断化が影響を及ぼすメカニズム	90
5.3	分断後の長期的変化と生息地管理	99
第6章	農業の特性と生物の応答	103
6.1	はじめに	103
6.2	農業の特性	104
6.3	農業が生態系に及ぼす影響	105
6.4	農業活動に対する生物の適応進化	116
6.5	農業と野生生物の共生を目指して	120
第7章	林業の特性と生物の多様性	127
7.1	はじめに	127
7.2	人工林の現状	128
7.3	人工林の種多様性	130
7.4	人工林の種多様性に影響する要因	132
7.5	林齢にともなう種多様性の変化	138
7.6	植栽樹種の影響	141
7.7	外来樹種の人工林	142
7.8	おわりに	145
第8章	漁業の特性と生物の適応	149
8.1	はじめに	149
8.2	獲る漁業がもたらす影響	150
8.3	種苗放流がもたらす影響	156
8.4	進化する漁業資源の管理	163
第9章	環境汚染と生態影響評価	167
9.1	はじめに	167
9.2	環境汚染と生態影響	168

9.3	化学物質の生態リスク評価の枠組みと生態影響試験	174
9.4	生態リスク評価の実務	178
9.5	既存のリスク評価手法の問題点	180
9.6	個体群レベルの評価手法	182
9.7	まとめと今後の展望	187
第10章	外来生物の生態学	192
10.1	はじめに	192
10.2	外来生物とは	193
10.3	外来生物の侵入プロセス	194
10.4	外来生物はなぜはびこるのか?	205
10.5	環境省・外来生物法	206
10.6	今後の課題—情報の共有と対策	208
10.7	おわりに	209
第11章	野生生物資源の管理と持続的利用	213
11.1	はじめに	213
11.2	MSY 理論	213
11.3	不確実性への対応	217
11.4	生態系の管理	223
11.5	野生生物の持続的利用は可能なのか	225
第12章	生態系の保全と再生	231
12.1	はじめに	231
12.2	生態系の保全・再生とは	231
12.3	生態系の保全・再生の事例	236
12.4	自然と共存していくためには	241
12.5	おわりに	246
索引		249